

三公社五現業民営化と極左団体等

JJ1SXA/池

三公社は公共企業体として、「日本国有鉄道」、「日本電信電話会社」、「専売公社」でしたが、全て民営化されて、現在は、JR グループ、NTT グループ、JT に変わったのはご存知のことでしょう。

公社になる前は、鉄道省(現在は、運輸省を経て国交省に移管)とか通信省(現在は郵政省を経て総務省に移管)の管轄だったようです、鉄道省とか通信省の時代を知る人はめっきり少なくなっています。

国の経営する企業の五現業は、次のような経過を辿った。

「郵便、郵便貯金、郵便為替、郵便振替及び簡易生命保険の事業」は、日本郵政公社を経て、現在は日本郵政グループとなり、ゆうちょ銀行・日本郵便・かんぽ生命に、「国有林野事業」は、国有林野事業の企業的運営は廃止され、一般会計の事業に、「日本銀行券、紙幣、国債、収入印紙、郵便切手、郵便はがき等の印刷の事業」は、特定独立行政法人国立印刷局に、「造幣事業」は、特定独立行政法人造幣局に移管、「アルコール専売事業」は、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構を経て、日本アルコール産業株式会社として独立した。

国鉄民営化は、複数の組合の中でも、国鉄動力車労働組合(動労)の反対運動は激しく、勤務時間内の入浴は既得権として認めろと強硬に主張していたのが記憶に残る、その後も、中核派の強い影響下にあるとされた国鉄千葉動力車労働組合は、2001年から2010年まで本線運転士の春闘のストライキが行われ、地元ではもはや「春の風物詩」となっていた、一部では「花見スト」などと揶揄されるとともに、これには房総各線の利用者からの反発も多かった、ストライキは、労働者の権利だが、お客様を完全に無視したり、理論的に通らない無理な要求に基づくストライキは如何なものかと思う。

参院選で山本太郎氏を応援したのが、中核派と社民党、生活の党、そして、市民の党、選挙後に山本氏は共産党創立91周年記念講演で、「本当の意味で野党の最大勢力は共産党だ」とエールを送っている、それぞれ因縁も恩讐もある組織の間を泳ぎ回って何を考えているのか？中核派や市民の党、この極左の連中と一緒に大丈夫か？本人が極左思想なのか？いずれにしてもこれから6年間議員生活を保障された、しっかり政治に取り組んでもらわないと困る。

中核派は血で血を洗う内ゲバで死者も出した極左暴力集団であり、市民の党代表の斎藤まさし氏は、「無党派選挙のプロ」等の評もあるが、「僕は革命のために選挙をやっている」「レーニン主義者だ」と公言している。

(1,Oct,2013 記)